**２０１３年７月１４日　「特別支援セミナーALL小嶋悠紀先生講座IN豊橋」まとめ**

１ヶ月ほど経ってしまいましたが、思い出してまとめてみます。将来読み直して役に立つようにしたい。

〇最初に隣の人と握手をしながら自己紹介をする。

・握手効果→脳内にセロトニンを増やし「快」の状態になる。

〇子どもの行動は大きく分けて２つに分けられる　・**その行動をして何かを得ようとしている**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・**その行動をして逃げようとしている**

〇足を机の上に上げる、机をバンと叩く・・・これは得ようとしている　反応性愛着障害

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　愛着を得ようとしている。それを与えてやる。

〇母親が統合失調症→子どもの世話ができない→子どもが反応性愛着障害の可能性がある

〇自己クリーニング（自分の体で自分を癒す）・・髪の毛をいじる、爪をかむ、

・指をしゃぶる行為　親指だけなのは軽症　褒めることでセロトニンが出て改善される可能性も

・症状がひどくなると・・・中指→薬指　もう一つの手で抑えるようになると最も重症。

〇子どもを安定させるためには・・一定感のある教師／安定感のある教師

〇机間巡視した時に、子どもが書いたことをタップする、読んでいるところをタップする

・子どもを褒めた効果があり。

〇母国語が中国語の子どもが、日本語ゾーン（教室）に入ると脳が不安になる→ADHDが出やすい

〇見つめる　セロトニンを出すことができる教師の行為

・**子どもがこちらを見たときに見つめる**（セロトニンがほしい時に子どもは教師を見る）

・**癒されたい子を目線で探す。見てきたら見つめてあげる。これもスキル。練習しないとうまくなれない**。

〇発達凸凹は誰にでもある。社会的不適応があると発達障がい。

〇DSM５　次の３つの症状　　・ADHD（注意欠陥多動症）

・ASD（自閉症スペクトラム障がい）　想像力の障がい・社会性の障がい　この２点で診断される

・SCD（社会コミュニケーション障がい）　社会性の障害だけだと診断される

〇障害の併存診断が将来可能になる　ADHDとASD　　ADHDとSCDというように

〇DSM５以後　学校現場での対応ポイント

１．無用に混乱しない　　２．診断名を共通理解する　　３．諸検査から対応を検討する（診断名からではない）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　特別支援教育はオーダーメイド

〇DSM５以後　家庭での対応ポイント

1. 名前に踊らされない　２．処方の再考ができる　３．再診断も一つの選択肢

〇模擬授業　国語　指書きと脳科学　　　授業でつかった資料の入ったCD購入

・**人差し指で指書きをするといい→脳のたくさんの場所が動く**

・**声を出して画数を言いながら書き順の練習をするといい　　継次処理　耳から聞いた情報を順番に書く**

・人類が視覚を獲得したのは６５００年前　聴覚は４億年前　　　視覚＜聴覚

〇赤鉛筆で一画目だけ書いておくと、思い出してかける子がいる。

　〇**ホムンクルス**　人差し指を使うことが有効だとわかる

〇小学校で放置されてきた子　本当は特別支援教育を受けるべき子どもだった

・手遅れが心配　　年齢を重ねれば重ねるほど発達障害の子どもたちはプライドが上がる

〇子どもが「はい」という→教師を安心させる行為　本当はどうか？

〇**映像で自分の行為を見せる　客観視させる**（デジカメでもいい）

・この繰り返しで指導していく　・発達障害の子どもは、自分を具体的にとらえられない

〇**大量の負けの経験がないと、負けを受け入れられない**

〇**人見知りをしない子は、反応性愛着形成ができていない**

〇発達障害の子どもは、愛着形成が遅れる

〇ワーキングメモリーのトレーニングは小学生のうちに

〇**ワーキングメモリーは「即時即決」で力がつく**

〇**筋肉と一緒で、動かすことで強化される**

〇**ワーキングメモリートレーニングは、バランスよくやることがいい**

〇**教師はとかく「指導」「支援」　脳の成長を待たなけれないけない**

〇教師のいやみ　積み重なって障害をひどくする

〇LDについて　**大阪医科大学LDセンター**

・こういう機関があることを知っていおることは選択肢が増えていいこと

〇居残りが好きな子・・先生を独占したい子

・日本の養護施設・・・集団指導でどうにかしようとしている　うまくいかない

・世界の養護施設・・・入学してきたら、愛着形成の対象者を誰にするかを決めてから始まる

〇**子どもと教師がつながっているかはくすぐってみるとわかる**

・くすぐって喜んでくれたなら、つながっている　・くすぐって「やめて！」と言われたら、まだつながっていない

〇自分で大きな花丸をつける子→雑な子？

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→自分で自分を褒めたいんだ　褒められたいんだ？

・どちらと判断するかで、指導が違ってくる。

〇セロトニン５

・見つめる・・まばたきをゆっくりしてあげる　セロトニンが多く出る　特に発達障害がある子

・微笑む・・微笑む時に首や腰を動かすと障害の子どもたちは注目する

　　　　　　　目をつぶって首をかしげる　これもいい

・話しかける・・**名前を呼んでほめてあげるといい**

・褒める・・ドーパミン系の反応　出過ぎると慣れてしまう　変化のある褒め方をする

・触れる・・タップ（セロトニン）　ダブルタップ（ドーパミン）

〇特別支援学級は一番格好良くなくてはいけない

〇小嶋学級・・・**子ども一人ひとりに学習予定がある　やり終えると予定を消していく**

〇特別支援学級で教えること＝生活の質を上げること

〇保護者との面談　とても難しいのに、みなさんはいきなり本番

〇カウンセリングの基本　相手に話をさせる

〇保護者会　１．最初に規定する　一番困っているのは子ども　大人が彼にとって一番いいことをしたい

　　　　　　　　　　建設的な話し合いにしたい

　　　　　　　　 ２．何ができるかを具体的に示す

〇壁をけっている子　共感　　「けりたかったんだ～」「けりたい気持ちなんだね」

〇書字障害　**体の中心からだんだん端へと発達する**　だから　体幹訓練をする　体幹から鍛える

・体幹鍛える例　鉄棒に３０秒　ツバメスタイル

〇教師がやったことを子どもも真似をする　子どもへの注意は教師がやる

・子どもが子どもを注意していたらこう言う

「それは先生がやること　それをやられると教師は５００円ずつ給料から引かれる」

※うまいな～と思う。こうやって面白く子どもに話すのだそうです。

〇保護者にいいこと、いいこと、いいことを告げてから、問題点をひとつ言う。

〇切れやすいのは、セロトニン不足

〇６０分の放課がいる→ソーシャルスキルを身につける場になる

〇**タイムタイマー　５分で動く練習に使う**　　　※なるほど

〇遅いのを受け入れましょう　　「早く」とは言わない

〇鼻くそをほじって食べる・・・セロトニン不足　　最後にこの言葉「**特別支援学級は科学なんです！**」